

調査 鑑識

子防部子防課

平成28年中に大阪市内で発生した火災件数は849件で、火災の定義に至らなかった燃焼・発煙事案は630件となった。今回は平成28年中に大阪市内で発生した火災の未定義事案について、統計結果をまとめたので紹介する。

今回のテーマ

平成28年の 火災の未定義事案について

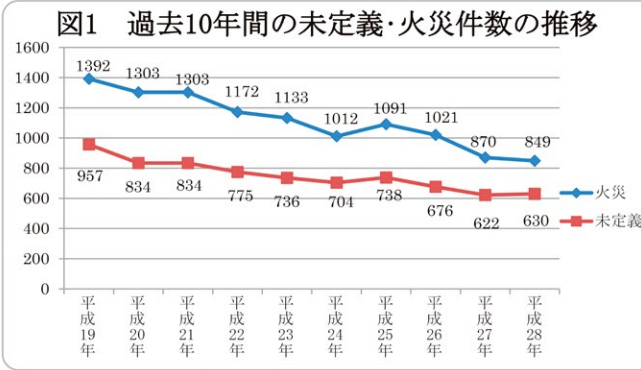


火災及び火災の未定義 件数の推移

平成28年中に大阪市内で発生した火災は849件（前年比マイナス21件）であり、火災件数は年々減少している。平成28年は平成27年と比較すると、火災件数は21件減少したが、火災の未定義件数は8件増加している。過去10年間の火災件数を見ると、平成28年は火災の最も少ない年で、また、火災の未定義事案は、平成27年に次いで2番目に少ない年であり、火災件数の少ない年は未定義件数も少ない傾向がある。（図1参照）

事案別件数

大阪市内における火災の未定義事案の内容は、鍋の空焚き（以下、



原因別件数

「鍋空」という、燃焼及び発煙等である。平成28年と比較すると、燃焼は38件減少したが、鍋空及び発煙は増加した。（表1参照）

発生経過としては、使用者の使用方法不良等や製品の不備欠陥によるものである。

	平成28年	平成27年	増減
鍋空	238件	202件	36
燃焼	200件	238件	-38
発煙	125件	110件	15
その他	67件	72件	-5

表1 事案別増減状況表

平成28年中の火災及び火災の未定義事案を原因別で見ると、火災原因の1位は放火であり、大阪市内においては、昭和51年から41年間、放火が火災原因のトップである。また、火災の未定義事案にあつては、1位がガスこんろで257件、2位が電気製品で61件、3位がたばこで50件となっており、全体の40.8%がガスこんろによるものである。ガスこんろにあつては23年から、火災の未定義事案の原因トップである。

今回は、火災の未定義事案の原因の上位であるガスこんろと電気製品の発生事由等について紹介する。

①ガスこんろ

ガスこんろの未定義事案を事案別で見ると、1位は「鍋空」の208件で全体の80.9%を占めている。（図2参照）

経過別で見ると、1位は「忘れる・放置する」が227件で全体の88.3%、発生時の作業内容では、「就寝」、「外出」、「別の作業をする」などが多く、鍋に火をかけたままその場を離れてしまうことが原因の事案が多発している。（図3参照）

②電気製品

電気製品の未定義事案を製品別で見ると、1位が電子レンジの30件、2位がオーブントースターの6件、3位が照明器具

